



## 市役所に新たな彩り

「コスタ・デル・ソルの彩り」  
傍聴席入り口の手前

市内在住の洋画家、町田 博文<sup>まちだ ひろぶみ</sup>さんから市へ 2 つの作品を寄贈いただき、市役所(本所)内 3 階の市議会議場付近に設置しました。

寄贈いただいたのは、2019 年(平成 31 年)第 105 回記念 光風会<sup>こうふうかい</sup>展出品の「コスタ・デル・ソルの彩り」と、2023 年(令和 5 年)第 109 回光風会展出品の「地中海のバルコニー」の 2 作品です。

設置場所は、議会傍聴に訪れる皆さんが鑑賞できる場所となっています。議会傍聴の際は、ぜひ町田さんの作品の美しさを間近でご覧ください。

町田さん、すてきな絵画の寄贈をありがとうございます。



「地中海のバルコニー」  
傍聴席受付横の廊下

## 市内にいた羊のお話

スポット  
ライト



友部種羊場の庁舎



羊の放牧の様子

笠間市内で、羊が飼育されていた場所があることを知っていますか。

現在の茨城県畜産試験場跡地には、大正 7 年から同 13 年にかけて「友部種羊場<sup>ともべしゅうじょう</sup>」として、羊の繁殖・育成を推進するため、国立の研究施設が存在していました。

当時、第一次世界大戦の影響により羊毛の輸入が困難となったため、国内での牧羊推進が計画されました。その結果、全国で 5 か所の種羊場が設置され、そのうちの 1 か所であった友部種羊場では、約 1200 頭の羊が飼育されました。当時の政府による行財政整理の結果、友部種羊場は廃止となりましたが、大正 15 年に茨城県が払下げを受け、現在の水戸市から茨城県種畜場を移転しました。その後、昭和 36 年の組織改編により、茨城県畜産試験場となった歴史を辿っています。

現在の畜産試験場跡地には、残念ながら友部種羊場時代の建物などは残っていませんが、この場所の歴史を知り、思いを馳せてみてください。

画像提供：大阪公立大学大学院生活科学研究科 中野 茂夫<sup>なかの しげお</sup> 教授

出典：神戸又新日報（五州社、大正 11 年 11 月 19 日）

羊（大阪屋号書店、昭和 9 年）

綿羊飼育精説（朝倉書店、昭和 12 年）

畜産発達史（中央公論事業出版、昭和 42 年）

